

知事記者会見の概要

日 時：令和7年1月29日(水) 10:00～10:51

場 所：502会議室

出席記者：13名、テレビカメラ6台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

代表質問

- (1) 知事選挙について

フリー質問

- (1) 春節における訪問先ランキングについて
- (2) 今後の県議会への対応について
- (3) 令和7年参院選への対応について
- (4) 知事選挙の投票率について
- (5) 5期目の公約について
- (6) 人口減少対策について
- (7) 多選批判について
- (8) 女性知事初の5選となったことについて
- (9) 来年度当初予算について

<幹事社：朝日・荘日・NHK>

☆報告事項

皆さん、おはようございます。

今朝から、大変雪が降り続けております。山形地方気象台によりますと、本日の夕方にかけて降雪量が多くなることが見込まれております。現在、西村山地域に大雪警報、庄内地域に暴風雪・波浪警報が発表されております。県民の皆様には、時間には余裕を持って行動し、自動車を運転する際は、より慎重な運転を心がけていただきますようお願いいたします。

また、雪下ろしや除雪作業の際には、命綱とか、ヘルメットを着用するなど、安全対策を行っていただくとともに、屋根からの落雪や路面の凍結によるスリップ事故には十分気をつけてくださいますようお願いいたします。

それから次に、このたび、2016年に日本ジオパーク委員会から認定を受けた「鳥海山・飛島ジオパーク」が再認定を受けました。これまでご尽力してこられました多くの関係者の皆様に、心からお祝いを申し上げます。

これまで、鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会の皆様が、活発な教育やジオツーリズムの活動を展開されていることや景観の保全と研究が官学民一体で進んでいることなどが評価されたものとお聞きをしており、大変喜ばしく思っているところです。

県としましても、引き続き、鳥海山・飛島ジオパークの価値や魅力を国内外に広く発信するとともに、この地域の地形や自然、これらに係わる人々の暮らしや文化、歴史、食など、観光資源として活用し、市町村や地域の方々と一緒になって、交流人口・関係人口の拡大に取り組んでまいりたいと考えております。

私からは以上です。

☆代表質問

記者

NHKの永田です。お願いします。

まず、5期目の当選おめでとうございます。今回の選挙戦で5回目、当選された所感を一つと、5期目、これから4年間で特に力を入れたいことを教えてください。

知事

はい。まず、所感ということであります。

このたびの山形県知事選挙におきまして、私、吉村美栄子が当選させていただきました。心から御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

時間が経つにつれて実感というものが出来てまいりまして、ひしひしと、重責といいますが、責任の重さを痛感しているところであります。

課題も山積している、そういう中でありますので、本当に知事として全身全霊で、初心を忘れず、全力投球で県政を担ってまいりたいと思っております。対話重視、現場主義。これは当初からの私の姿勢であります。これを堅持しまして、県民の皆様、市町村、本当に多くの皆様方と一緒に、山形県、県民の皆様の幸せと県土の発展、これをさらに前に進めていくために全力で頑張りたいと思いますので、今後ともよろしくようお願い申し上げます。

それから、5期目に力を入れたい政策というお話でありますけども、まず、昨年7月の豪雨災害は、本県全体に、自然災害としては過去最大の甚大な被害をもたらしました。この災害からの一日も早い復旧・復興を成し遂げるとともに、さらなる県民の皆様の幸せ、そして県政発展を実現するため、5つのチャレンジを政策の柱として掲げているところでございます。

その中でも、「安全安心に暮らせる山形県」というのがあります。この実現を目指して、豪雨災害からの復旧・復興に全力を挙げるとともに、ハード・ソフト両面から防災・減災対策を強化していきたいというふうに思っております。

具体的には、河川整備や流下能力向上等による治水対策の推進とともに、防災士の養成や女性の参画促進、デジタル技術を活用した地域防災力の強化などを進めてまいります。

合わせまして、最重要課題の一つがやはり、人口減少対策であります。このことにつきましては、全国的な課題でもあって、なかなか特効薬となるような施策は見いだせないものでありますけども、粘り強く取り組んでいくことが大事だというふうに思っております。

結婚支援や子育て支援の充実、さらには若者、特に女性の県内定着・回帰や、関係人口・交流人口の拡大、移住・定住の拡大、外国人材の受入拡大などに力を入れてまいります。

そして、喫緊の課題というのはやはり物価高騰対策であります。現在、物価高やエネルギー価格の高騰が長期化しておりまして、県民生活や企業経営は苦しい状況に置かれております。これまでも市町村と連携してプレミアム商品券などの発行事業のほか、低所得のひとり親世帯に対する県産米提供や、高齢者のみの低所得世帯等に対する冬季の灯油購入費等の支援拡充などを行ってまいりました。物価高騰等の影響を注視しまして、必要な施策を実施していきたいというふうに考えております。

今週から、令和7年度の予算編成が本格化しておりまして、選挙で掲げた5つのチャレンジをいかに実現していくか、実質的なスタートとなっております。県民の皆様のご期待に沿えるよう、各部局の意見を聞きながらしっかりと議論を行いまして、県政を前に進めてまいりたいというふうに思っているところであります。

☆フリー質問

記者

すいません。引き続いて1問だけ。

1月28日、昨日から春節が始まっていて、あるアンケートによると山形県が「訪れたい県」1位となっているというデータもあります。このような機会をどのように捉えて観光客だったり、インバウンドの誘致につなげていきたいでしょうか。

知事

はい。春節に訪れたい地域ということで、山形県が第1位になったと、一番多かったということについては大変喜ばしく思っているところであります。

その内容というものをですね、まず精査することが大事だと思っておりますけども、おそらく「銀山温泉」とか、「蔵王」、そういったところが人気なのかなと思っておりますし、従前はやはり東京・大阪・京都、そして北海道というところが人気だったかと思うんですけど、いろ

いろいろ側聞しますと、宿泊代が高騰しているとかですね、いろいろなことも聞かれます。山形県がなぜ1位に選ばれたのかということについては、大変誇らしく思いますとともに、その辺、どういった事情があるのか、まだどういったPR効果があつたのか、とかですね。いろんな面でやはり検証する必要があるかなというふうにも思っています。

ただ、本当にそういう、実際に選ばれる地域になっているということについては、本当にそれをもっともっとですね、内容を精査しながらなんですけども、さらに磨き上げてPRを強化したり、受入態勢というものが十分なのかどうか、そういったこと、さまざまな総合的な観点で、しっかりと県としても調べまして、今後に備えたい。本当に良いきっかけといいますかね、次につながるように、さらなる高みを目指してしっかりと観光拡大、交流人口拡大というふうに申し上げておりますけども、本当に、大変幸先の良い話題だなというふうに思っているところであります。

記者

TUYの藤井と申します。よろしく申し上げます。

知事、まずは5期目の当選おめでとうございます。今回の選挙戦は、これまで対立関係にあった自民党が結果的には支援、相乗りを受けるという形になりました。これまでとは違って、いわゆるオール与党化になる県政、それから県議会、これからどうなっていくと知事はお考えですか。

知事

はい。そうですね。まずもって、本当にこれまでご支援いただけなかった政党からもご支援いただけたということで、本当に感慨深いものがあります。長い年月かかりましたけれども、やっぱりオール山形体制というのはですね、いろいろな、特に大きなプロジェクトを進める上ではとても重要な要素だというふうに思っていますので、オール山形でしっかり進めていけるものを進めていきたいというふうに思っております。

今後というご質問でありますけれども、今、始まったばかりでありますので、どういうふうなご支援・ご協力をですね、していただけるのか、それはやはりお互いの、相手の方々だけでなく自分のほうも、お互いにどういうふうに望ましい方向に持っていくのかというのはお互いが問われているものなのかな、というふうに思っておりますので、本当に山形県民の幸せと県土発展のために出来る限り共同で協力し合いながら政策を前に進めていただけるように、私としても全力を尽くしていきたいというふうに思っています。

まだ始まったばかりなので、どういうふうなことになっていくのかはまだわからないところがありますけれども、でも、本当に明るい方向になってきたのかなと現時点では思っております。

記者

続いての質問です。今年は夏に参院選があります。自民党の支援、相乗りを受けたわけですけども、知事としては政治信条に「恩返し」というものがあると思います。吉村知事はこの夏

の参院選、どのように動くとお考えですか。

知事

そうですね。ようやく知事選挙が終わりまして、そして今、予算協議も真ただ中といえますか、もう本当に始まっています。もう来週までとにかくこう、毎日毎日、朝から晩までしっかりやらないと間に合わないというような状況でありますので、ちょっと夏の選挙のことまでは、正直言って思いが至らないところであります。

記者

最後の質問になります。今回の選挙戦、吉村知事自体は94.71%の得票率で圧勝でした。ただ、選挙戦（の投票率）としては戦後の18回の県知事選挙では最低の4割を下回る結果になりました。加えて、無効票も7千票近くと前回の3倍近くになりました。そこは知事としてはどうお考えでしょうか。

知事

そうですね。私としましては、選挙戦はあるものとして、慌ただしい中ではありましたが、様々な準備をし、選挙を戦ってまいりました。

政見放送も私は、きちんと実施させていただきましたし、政策というものも出させていただきました。また、出来る限り全県を回らせていただいたということでもありますけれども、県内回ってポスターも私一人のしか貼ってなかったんですね。どこ行っても、山形市内の一部を除いては。そういう状況でありましたから、やはり盛り上がらなかったということもあったんだろうなというふうには思っておりますけれども、ただ、投票行動というのは、県民の皆様の大切な権利でありますので、もっともっと行使していただきたいなというふうにも思っております。大変残念だったというふうに思っておりますが、選挙はこれで終わりではなく、これからはまたありますので、ぜひやはり選挙、県民の皆様の生活に本当に関係しているものでありますので、皆さん一人一人の権利をしっかりと行使していただくことが出来るようにですね、出来る限りの呼びかけということをこれからはやっていければというふうに思っています。

投票率下がったというのは、本当に残念なんでありますけれども、そしてまた無効票も多かったということをお聞きしております、それについても、しっかりと受け止めなければいけないというふうに思っています。色々な思いもあるかと思いますが、ただ、4年後には、やはり吉村を選んでよかったと言っていたように、私はそういったところを目指して、しっかりと県政にまい進していきたいというふうに思っています。

記者

山形新聞の鈴木です。当選おめでとうございます。すいません、低投票率のところで、もう一度教えてください。知事は、出来る限り県全体を回ったというお話もされましたけども、改めてですね、吉村知事ご本人、もしくは陣営として、もうちょっとこんなことが出来たんじゃないかなと、県民の投票、有権者の関心を高めるために、もうちょっとこんなことが出来たん

じゃないかなということがありましたら教えてください。

知事

そうですね、ちょっと計算が狂ったのは、私自身がインフルエンザにかかってしまって、2日、3日は、とても動けなかったというのがありますので、それは私として大変反省しているところでもあります。陣営の皆さんとしては、私がインフルエンザにかかっていたところですね、なんとか補てんしようと回っていただいたということ、また各地で地域の支援者の方々がマイクを握ってくださったということもお聞きをしておりますので、出来る限りのことをしてくれたのではないかなというふうには思っております。

ただ、コロナも静かに広がっていたり、何よりもインフルエンザが注意報から警報に切り替わって、そういう県内の状況もあったので、なかなか多くの皆さんに集まってもらってというような状況は作れなかったのも、これは致し方ないのかなというふうには思っているところです。

ただ選挙って、相手もあることなので、どういうふうになれば良かったかっていうのは、また反省点をですね、陣営の皆さんと一緒に話し合ってみる必要があるかなというふうに思っています。

記者

はい、ありがとうございます。もう1点、昨年の12月28日に、正式に発表されましたマニフェスト、「チャレンジ5.0」ですが、前回、4年前もそうでしたけれども、具体的な数値目標などが、まったく盛り込まれない内容になっていました。そういった意味でも、ちょっと少しぼやけているっていうか、具体性に欠けるかなというふうな印象を持つ人が多かったようですが、具体的な数値目標などを入れない理由っていうのは何かあったんでしょうか。

知事

理由というのはちょっと思い当たらないんですけども、ただ、12月6日に、立候補の決意表明ということを見せていただき、そのあと、議会对応のさなかをぬってですね、準備を進めてきたという、非常に慌ただしい中でありましたので、数値まではちょっと行きつけなかったのかなというふうに私自身は捉えているところです。

記者

今後、具体的な数字なんかも含めた、知事が目指す県の姿というものは、どういった形で県民の方に伝えていこうと考えていますか。

知事

そうですね、「チャレンジ5.0」といって、5本の政策の柱というものはお示しをさせていただきましたので、あれに沿って、どういう施策を打っていくべきかというようなことは、今、議論が始まっていて、これからもそうしたことをしっかりと取り組みながら、その中で、数値、

具体的なものを出せるものは出すというようなことをしなければいけないのかなというふうに思っています。

記者

河北新報の奥島です。よろしくお願いします。

1 個前の TUY さんの質問に関連してなんですが、無効票についても色々な思いがあって、しっかり受け止めないといけないというお話でしたが、投票率が低かったということも含めてですね、この無効票なり、投票を棄権するという行動が、知事ご自身への評価との関わりでは、どういうふうな声だったかというふうに知事は受け止めてらっしゃいますか。

知事

無効票の内容が、ちょっと私、把握しておりませんので、白紙だったのか、何かが書いてあったのかとかですね、そういったこともちょっとわからないので、そういったことは出来る限り把握をしてみたいというふうに思っています。

あと、投票率そのもので言いますと、知事選挙 39.6%だったと思いますが、酒田・飽海の県議会の補欠選挙ですか、その選挙が 40%だったと思うんですけども、それも意外と上がらなかったなど、後でわかってから思いました。だから、知事選挙だけなのか、他の選挙も非常に低くなっているのか、もし全部が低くなっているとすると、全体的な政治不信みたいなものもあるのかもしれないというふうに、最近ちょっと私自身もそういうこともあるのかもしれないとかですね、思ったりもしますので、まずいろんな視点から考えなきゃいけないかなというふうには思っています。

ただ、思い当たる点というのは、例えば、5 期目ということであったので、多選批判というものがあったんじゃないかなということは、自分で私が直接言われたわけではないですけども、あるマスコミさんから、そういう声が聞かれましたっていうことをお聞きしておりますので、そういうことがあるのかもしれないというふうに思っています。それで、それを払しょくするには、私として、4 年後に選んで良かったというふうに思っただけのようにしっかり頑張らなきゃいけないなというふうに、今、思っているところです。

記者

読売新聞の仲條です。

2 点お伺いしたいんですけども、まずですね、初当選の時から、16 年経たれて、5 期目を迎えたわけですけども、ご自身の中で、県のリーダーとして、初当選の時と比べると、こういうところが成長したんじゃないかなとか、より県のリーダーとしてふさわしくなったんじゃないとか、こういう経験値が増してきたからこういう力が出てきたとかですね、知事の中で、成長したような部分というのは、お感じになってる部分がおありなのかどうかというところ、ちょっと教えていただけないでしょうか。

知事

はい、そうですね、最初の時っていうのは、本当にもう何もわからないような状況で、立候補してですね、ただ、大好きな山形県を良くしたいという、そういう熱意だけの塊みたいなもので、政治というものがなんたるかというようなことまでは、あと政治家とかですね、そういったいろんな政治界のことなどは全くわからずにいたわけなんです。だからそれが最初の私でありました。それから、いろいろと成長させていただいてきたかなというふうに思っております。議会を通して、また、本当に、県内の多くの業界の皆様、県民の皆様とお会いをして、対話をさせていただいて、だんだんいろいろなことを知り得るようになったというふうに思います。

最初はですね、例えば、高速道路の整備率などというのは、知事になってから初めて46位、本当に整備率が低いんだっていうのは、一県民の時にはちょっとわからなかったことであります。知事になってから、これはもう何としても県の発展のためにはこれは進めなきゃいけないという強い思いで、そういうインフラというものには力を入れてきたというのがあります。

そのように、最初本当に、いろいろなことがまだまだ未熟者であった、今でも未熟な点たくさんありますけれども、少しずつ少しずつ成長させていただいてきたかなというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。あともう1点。全国知事会でなんですけれども、当選回数5回以上というのは、少数派と言いますか、数えるくらいしか、全国他の都道府県を見てもですね、知事さんいらっしゃるわけなんですけれども、これも一概には言えないかもしれないんですけど、当選回数重ねれば重ねるほど、全国知事会の中でも、他の知事さんが見る目が違ってくると言いますか、発言の影響力というのが増してくるような側面もあるのかなと思うんですけども、全国知事会の中で、5期目で、知事ですね、特にこういうような取組みに力を入れたいですとか、そういったようなものはございますでしょうか。

知事

私は、自分自身が知事に就任してから、ずっと思ってるんですけど、それはそれぞれが一国一城の主と言いますか、一つの県を背負っている人たちでありますので、何期であるとか、もちろん性別とか関係なくですね、私はやっぱり、全力を挙げて、自分の県、それぞれの県を良くしようと思っている人たちの集まりだというふうに捉えておりますので、何期になれば存在感が増すとか、そういったことは自分自身の中ではあまり興味が無いと言いますか、そういう尺度はちょっと持ち合わせておりません。それに、当選回数の多い人、とても多かったんですけども、それがちょっと交代している時期なのかなというふうに思っています。

ですからすぐ1期、2期で辞められる方もおられますけれども長い方もおられたということがあります。ただ、私自身も女性知事は大体2期ぐらいで終わりかなというのは、ずっと最初の頃、他の方々を見ているとそういう思いはありましたね。だからそれが意外と長くなってしまっているということは思います。だけど、何期目であろうととにかく全力で頑張らなきゃい

けないというのは、私は同じだなというふうに思っております。

記者

知事会の中で特にこういう議論をしてみたいとか、そういうような部分というのは5期目ではありますか。

知事

そうですね、やはり思いますのは、地方、前から何回も言っているんですけども、国と地方という言葉はよく言われるんですけど、「47都道府県が国なんだ」というふうに私は思っているんですね。だから私たちが国を作っているという意識がありますので、そういう意味でやはり対等であるべきというふうに思っていますし、もっと私たち47都道府県の知事たちの意見が国政にもっと取り入れられるべきだというふうに思っています。

記者

時事通信です。よろしくお祈いします。

知事、5期目の当選おめでとうございます。冒頭でもお話にあったかと思うんですけども、人口減少対策について最重要課題としてこれまでも取り組まれてきたと思うんですが、なかなか特効薬がないとか、全国的にも同じ状況だというふうなお話もあって、以前にも知事は政府と地方が一体になってやらないといけないというふうなお話もされていたんですけども、具体的には国にこれからどんなことを求めていきたいのか、あと、国がやっている人口減少・少子化対策といったところを知事はどのように見られているのか、いかがでしょうか。

知事

はい。順序なく申し上げますと、とにかく地方はもう危機感を持ってずっと10年以上前からそれぞれ取り組んできていると思います。市町村も都道府県もですね、ようやく政府もそういうふうな取組みをしてくださるようになってきているかなというふうには思うんですけども、ただ、根本的に地方から人口が流出するのがやっぱり18歳人口だったりですね、進学と就職なんですよ。そこのところをきちんと対策しない限りそれは止まらないと思いますし、これは、だから一つの県で出来ることではない。出来る限りのことは、でもやってきました。大学院を設置したりですね、大学を作ったり、そういった本当に出来るところからその進学先というふうなところも作ってはきたんですけども、どうしてもほとんどが大都会に大学はありますし、就職先もあるというようなことを考えますと、やはり大学や企業の地方分散ということをしっかりやっていかなければ、人口が地方から流出しないということにはならないのではないかと、これまでやってきてそこがね、もっと対策されない限りはなかなか難しいことではないかなとは思っています。

あともう一つは賃金の問題で、全国一律かあるいはその業界によって全国一律というふうなことをしっかりやっていただかないと、やはりどうしても同じように働いて賃金が高いほうに人が流れてしまうというのはあると思いますので、それも大変大きな問題だというふうに思っ

ています。

記者

わかりました。ありがとうございます。

あと、今回5回目の当選ということで、多選については批判の声もあるのではないかというお話も先ほどありましたけれども、一般的に考えるとなかなか周囲に意見を言ってくれる人が少なくなったりとか、あとは新しい考え方とか意見というのを取り入れづらくなるのではないかということも考えられると思うんですけども、知事はそれに対して何か対策というか、どうしていけばそれが防げるかというところ、何かお考えはありますでしょうか。

知事

そうですね、やはり心してそういうところは陥らないようにしなきゃいけないというふうに思っています。私自身が常に好奇心を持ってしっかり前向きに物事を進めていくという姿勢を持っていかなきゃいけないし、やはり対話ですね、対話というものをこれまで以上にやらなきゃいけない。

特に先ほどの人口流出という件ではですね、大きなその枠組みの問題はあるんですけども、ただ、出来るだけのことを県内でやらなきゃいけない時に、その流出する年齢の若者たちのいろんな考えというものをですね、もっともっとそのコミュニケーションをして、対話をして、どういうことを感じて、考えて、またどういうことを望んでいるかというようなことをもっともっとですね、お聞きをして取り入れる。そして経済界とも連携してそういった内容が実現出来るようにするといったことをしていかなければいけないのではないかなと最近思っています。

それで子どもたちや若者、女性の意見をお聞きして県政に反映させることでワクワク感のある未来を作っていきたいというふうにパンフレットには書いてあるんですけども、やはり多くの県民の皆さんのお声をもっともっと取り入れる、お聞きをして県政に反映させるということがやはり一番大事なのかなというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。すいません、あと最後にもう1点なんですけれども、これからいろいろなその県民の声というのを聞いていくということなんですけれども、今回の選挙戦でも35市町村回られたということで、なかなかインフルエンザとか公務で思うようにいかないところもあったかもしれないんですが、県民は知事に何を最も、次の4年間に求めているとお考えでしょうか。

知事

そうですね、対話をする時間は非常に少なかったと言いますか、こちらから政策、5本の柱ということをお話をさせていただいて、そういったことをやってきましたので、県民の皆さんが何をしてほしいかということですね、これからやはりもっともっとお聞きをしていかなければ

ればいけないんじゃないかと思っています。

なかなかそういったコミュニケーションの場はですね、今回の選挙でたくさん作れたかと言うと、それはちょっと、もうちょっと足りなかったかなと。足りなかったというか本当に政策の柱をご紹介するのが、そこに力を入れたというのがありましたので、皆さんのお声をもっともっとお聞きしなければいけないというのが今の率直な私の考えです。

ただ、いろいろとお話と言いますか、長くお話ししたということではないんですけど、やっぱり生き生きと働いて生きていくというのがとても大事なことだなと思ったのはですね、シニアの方も仕事があると嬉しいというようなお声を結構お聞きしたので、どうしても若者の流出のところには主眼を置きがちだった今回の政策だったんですけども、県内を回ってみてシニアの方々から「シニアも仕事をしたいんだ」という声を何回かお聞きした時に、やはり元気なシニアの方々にももっと活躍していただくのが大事だなというのは今回の選挙で収穫があったというふうに思っています。

記者

共同通信の中村です。

知事、今回の当選で女性知事として5期目に当選する方が全国で初めてということで、それについては所感というか、ご自身の政治家人生の中でどういうふうに捉えていらっしゃるか教えてください。

知事

はい、結果としてそういうことになってしまったということですので、そこを目指していたのではさらさらないので、ちょっと自分でも驚いています。結果として女性知事で5期目というのは初めてだというふうに報道もされまして、「おお」と思って、自分でですね、驚きましたけれども、大抵2期が一番多いなとずっと思ってききましたので、いろいろな事情が重なってこういうふうになってしまったのかなと、結果としてこういうことになってしまったのかなと思っております。

ただ、女性がそういうふうに長くした方がいらっしゃるなかったというのもまたちょっと不思議でありまして、男性は長くてもいい、女性は短くていいということではないと思っていますので、性別に関わらず長く出来る可能性もあるというようなことはお示し出来たのかなというふうにも思っています。プラスの方向で働く女性の方々が捉えてくださればありがたいかなと、働く・働かないに限らず女性の皆さんもですね、いろんな可能性があるというふうに思っていたらとありがたいというふうに思っています。

記者

知事は県庁内部では女性の管理職の積極的な登用というのも進めてきたかと思いますが、県内政界、政治の分野で自分の後継となるような女性の政治家を育てたいとか、政治を志す女性の背中を押したいという、首長でも議員でも何でもあると思うんですが、そういった思いはあるのでしょうか。

知事

そうですね、特に具体的ではないですけど、ただ、私が県政を行わせていただいているということで、幼い頃からですね、女性とか男性とかその性別に関わらずに政治家になれる、知事にもなれるということで、小さい時からそういうふうなことが自然になっていけばいいかなというふうに思っています。

特に政治家を育てたいというところまではないんですけども、「山未来塾」というのはそもそもみんなで、私も一緒になって成長しようという思いで作りましたけども、なかなか実施出来る数は少なくはありますが、でもその中でも結構政治家は出ております。そういったこともなかなか時間は取れないけれども、進めていけばというふうにも思っておりますが、あと、経済界でやはり女性管理職を増やしてほしいかなというふうには思っています。やっぱりやる気の、意欲のある方々もたくさんいらっしゃると思いますし、思い切って登用していただいて、さまざまな視点を持った商品とか製品とかができれば、その会社の、企業の成長につながるというふうに思いますし、大いに女性の能力も生かしていただきたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。最後に、先ほどTUYさんの質問で、県議会のオール与党化で今後どうなるのかという質問の中で、回答でどういうものが求められているかはお互いが問われているというふうにおっしゃっていました。そのお互いというのは知事も自民党側もということですよ。

知事

そうですね。やはり片方だけではなく両方が大事なのではないかとというふうに私は思っています。どうしても相手側に対してという、望みと言いますかね、そういったことを出しやすくなるんですけども、でも自分自身もやはり求められることもあるかもしれないというふうにですね、やはり人と人のつながりが社会になっておりますので、緊張感を持ちつつもやはり協力体制ということ、良い意味での協力体制を構築していけばいいというふうに思っています。

記者

先ほどおっしゃっていた5本の柱の中で、人口減少対策があったと思いますが、今、100万8千人というのが最新の人口の中で、1か月くらいで千人くらい減っているというところで、知事の任期が満了する頃には95万人余りになっているのかなという、ざっと計算出来るところなんですけど、例えば数値目標がまだ定まっていないというところで恐縮ですが、例えばどこまでには止めたいとか、何万人までには収めたいとか、何か目標みたいなものはあるんでしょうか。

知事

いや、具体的な数字はちょっと今言えません。ただ、100万人を切るというところでは、本

当に100万人は切ってほしくないなという思いは私自身もありましたので、県民の皆さんもそこが一つの本当に大きなショックになるのかなというふうに思っています。そこで私としても県庁内です、今年100万人を切るかもしれないという、そういう事態でとにかく関係人口、交流人口の拡大に力を入れなきゃいけないというようなことは申し上げてきているところがあります。

記者

ありがとうございます。これで最後にしますが、今、予算を編成している途中というところでしたが、今回の、言える範囲でいいですが、目玉にしたい予算だったりとか、この1年をかけて絶対にやっていきたいという、豪雨災害以外にも何かあれば教えてください。

知事

まさに今予算協議が始まっておりますので、全部終わったわけではありませぬので、その中で「これ」というようなことはちょっと、今、本当にそれぞれの項目に対して各部から聞き取りをして一つ一つその査定をしている段階でありますので、今申し上げることは難しいと思えます。

記者

何か政策を教えてくださいとかそういうわけではなくて、知事の中で何か大事にしたいポイントとか、ここには力をかけていきたいみたいなものもないですか。

知事

それは、先ほどの代表質問の時もありましたけども、やはり今後も県民の皆さんがですね、安全・安心に暮らしていけるというようなところは、非常に災害が多発している中であって重要だというふうに思っていますので、どういった備えが出来るのかというようなことは、私はやっぱり長い目で見てそこは大事かなと、安全・安心に暮らしていける、そのためのハード、ソフト、どういふことが出来るのかということですね、しっかり聞き取っていきたいというふうに思っています。

だからそれは長期的なものでありますから、短期的なものは先ほど申し上げたように、人口の流出のところをどうやって止めることが出来るのかとかですね、そして目の前は物価高騰、どういふ対策があるのかとか、本当に目の前と中・長期というようなことになりますので、先ほど代表質問の時に答えたところであります。